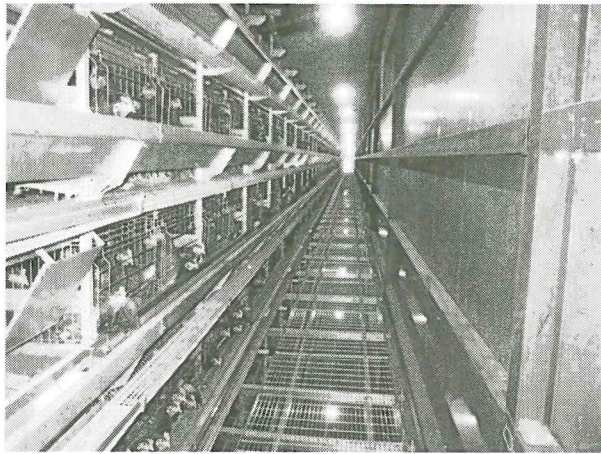


性能アップした耐震仕様

ハイテム8段直立ケージシステム

熊本地震で耐震性能を実証

(株)ハイテム(安田勝彦)
社長―本社・岐阜県各務
原市テクノプラザ2―



熊本地震後、順調に稼働を続けるハイテム直立ベルトケージシステム

10)は、岐阜大学との産学協同で開発した免耐震仕様直立ベルトケージシステムを2009年に発売。2011年の東日本

ど被害が出なかったが、少数の農場で壁側通路のグレーチングが外れる現象がみられた。
この現象を解析した結果、大地震に対応するためには、直立ケージと建物の揺れの違いをしっかりと吸収する構造が必要なることを見出し、東日本大地震以降の同社システムには、同吸収構造(特許)2014年成立)を織り込み、耐震性能の向上を図っていた。
今回の熊本地震では、統計的に100年に1回発生すると言われている震度6強と、震度6弱に襲われた地域の農場に同社の8段直立ケージが納

入されていた。
前例がないと言われる2回の大地震後、同社で行なった調査では、8段ケージ列の上部4段と建物の揺れは建物幅方向で約20%の差があったことが判明したが、前出の吸収構造の働きでケージ間連結部材などに一部損傷があった程度の被害にとどまり、給餌、集卵などケージシステム全体の稼働には影響がないことを確認し、同社の耐震仕様直立ベルトケージシステムの有効性が実証されたといえる。
地震被害に及ぼす要素は、震度のほか、地震加速度、揺れの周期、長さ

などがあり、その組み合わせを考えると完璧な対策は現実的ではないとされているが、同社では、究努力を続けていきたい。地震国日本で、より安心